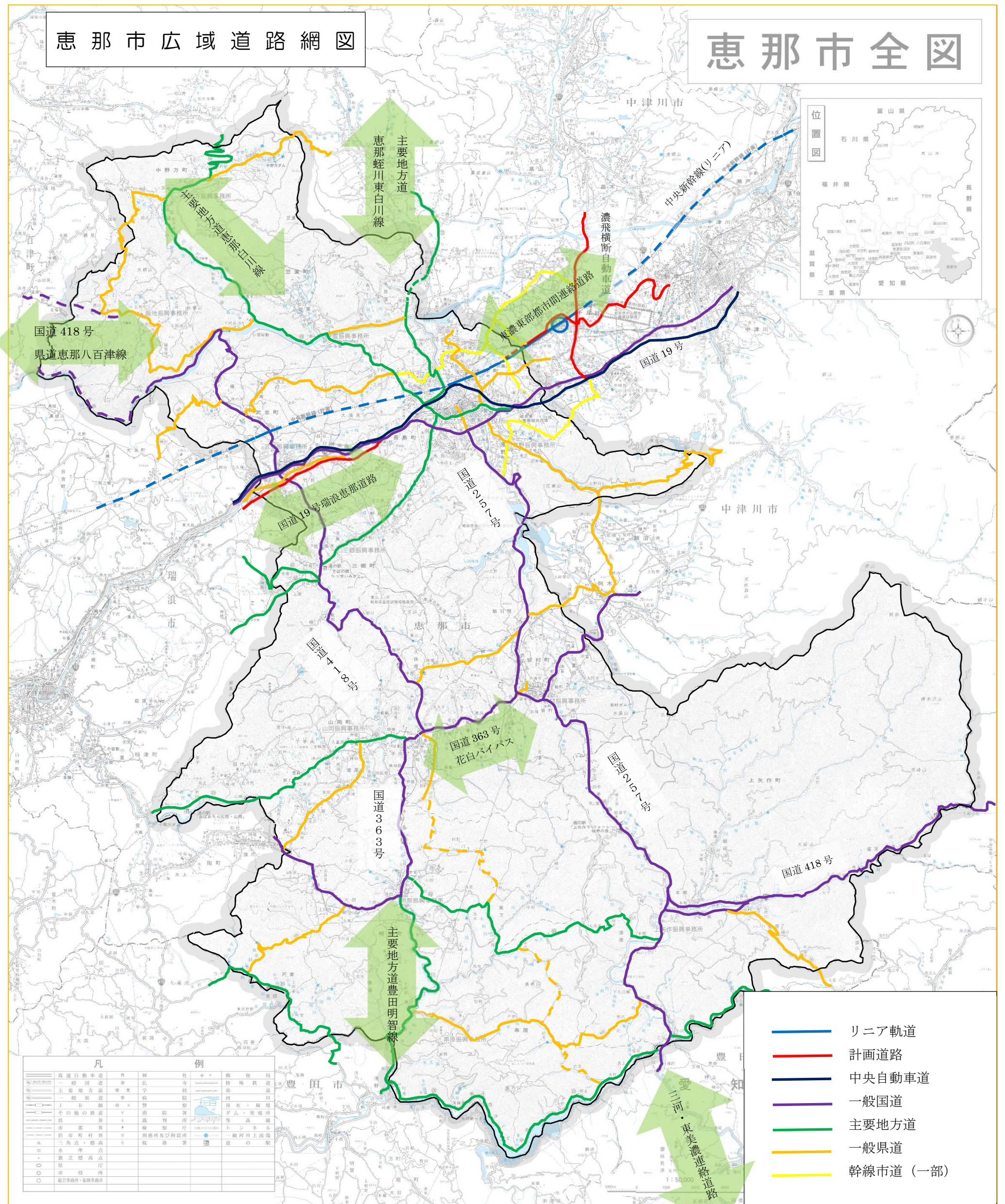


惠那市全図



令和7年度

リニアまちづくり基盤整備計画実施計画
市事業の進捗状況について

令和7年6月30日

恵那市リニア都市計画局都市整備課



恵那市公式キャラクター
エーナ



目次

リニアまちづくり基盤整備計画実施計画 市事業の進捗状況について

1. 概要と進捗について(別紙)
2. (仮称)恵那峡SAスマートIC
3. 東濃東部都市間連絡道路
4. 大井長島地域及び野畑野尻地域の道路計画
関連する地域での土地区画整理事業
5. 瑞浪恵那道路
6. 広域アクセスに関する事業
7. リニアまちづくり構想について



2.(1)(仮称)恵那峡SAスマートIC 上り線側 計画案



この計画案は現在検討中であり、位置・構造等については変更となる可能性があります。



2.(2)(仮称)恵那峡SAスマートIC 下り線側 計画案

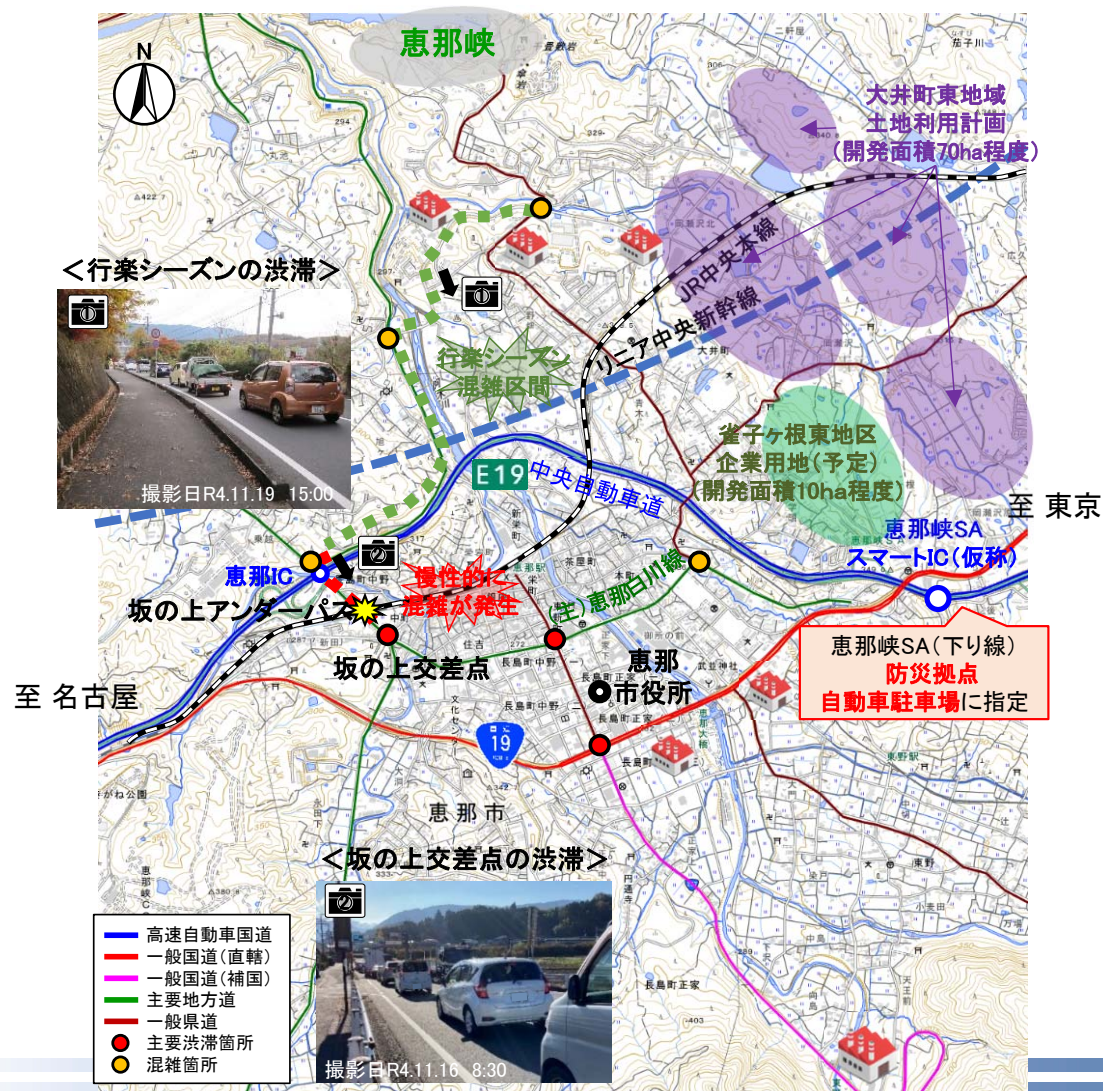


この計画案は現在検討中であり、位置・構造等については変更となる可能性があります。



2.(3)(仮称)恵那峡SAスマートICの整備

- 効果① 中央自動車道へのアクセス性を強化し、産業の活性化
- 効果② 新たな観光ルートを形成し、地域の観光を活性化
- 効果③ 恵那市内の混雑を緩和し、円滑な交通を確保
- 効果④ アクセス性の向上による防災機能の向上



効果① 産業の活性化の支援

中央自動車道へのアクセス性が向上し、新たな企業誘致や企業間連携の強化

効果② 観光の活性化の支援

混雑区間を避けた恵那峡への新たな観光ルートが形成され、地域の観光活性化に寄与

効果③ 周辺道路の混雑緩和

国道19号や坂の上交差点等を通過する交通が分散することで渋滞が緩和され、円滑な交通の確保に期待

効果④ 災害に強い道路機能の確保

恵那峡SA(下り線)は防災拠点自動車駐車場に指定、アクセス性の向上により防災機能を強化

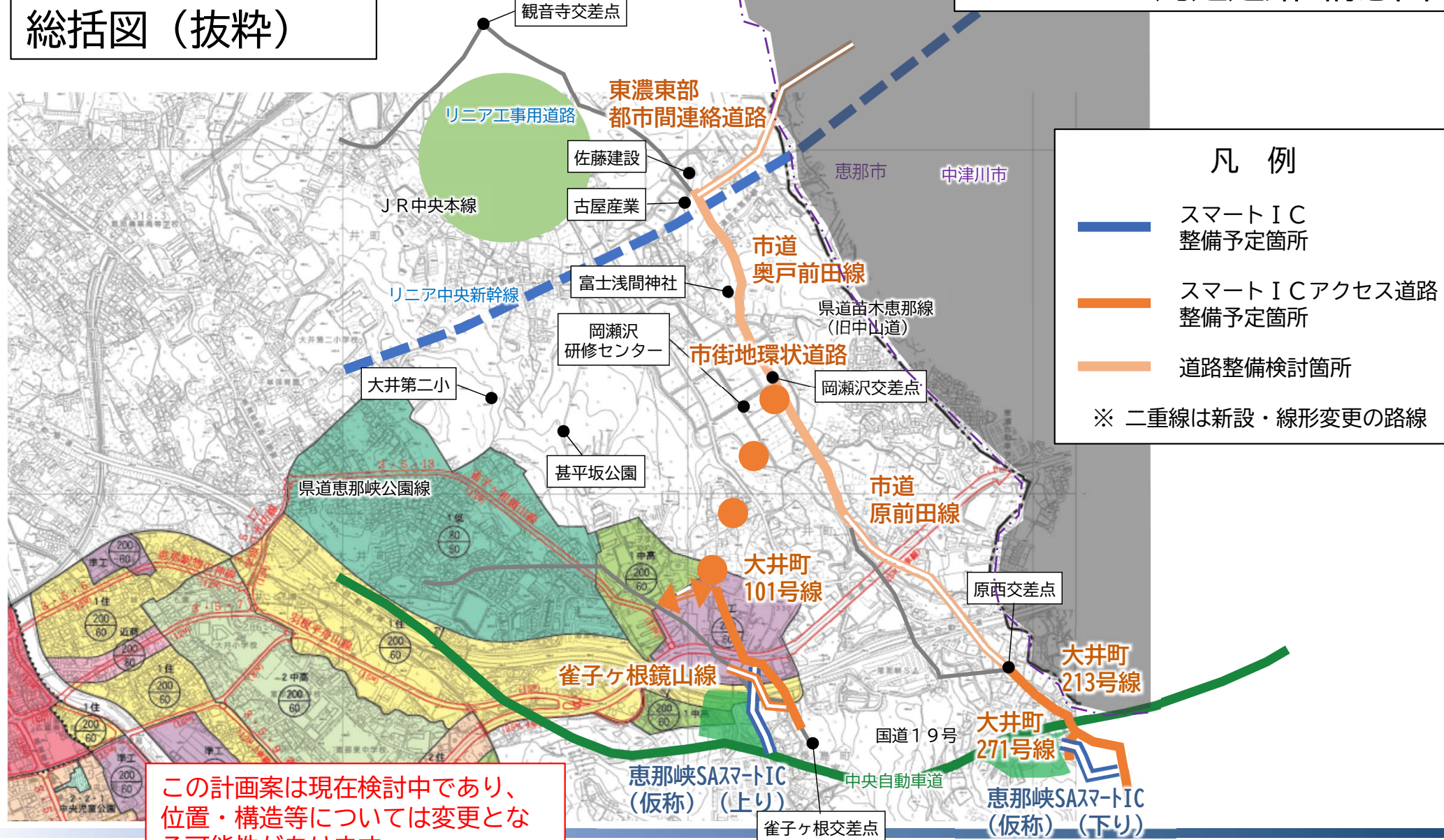
主要渋滞箇所: 岐阜県道路交通渋滞対策推進会議(R3.2.19)
混雑箇所: 平成30年度仮称リニアまちづくり計画基盤整備調査



2.(4)スマートIC周辺道路整備の土地利用

恵那市 都市計画 総括図 (抜粋)

スマートIC周辺道路 構想図

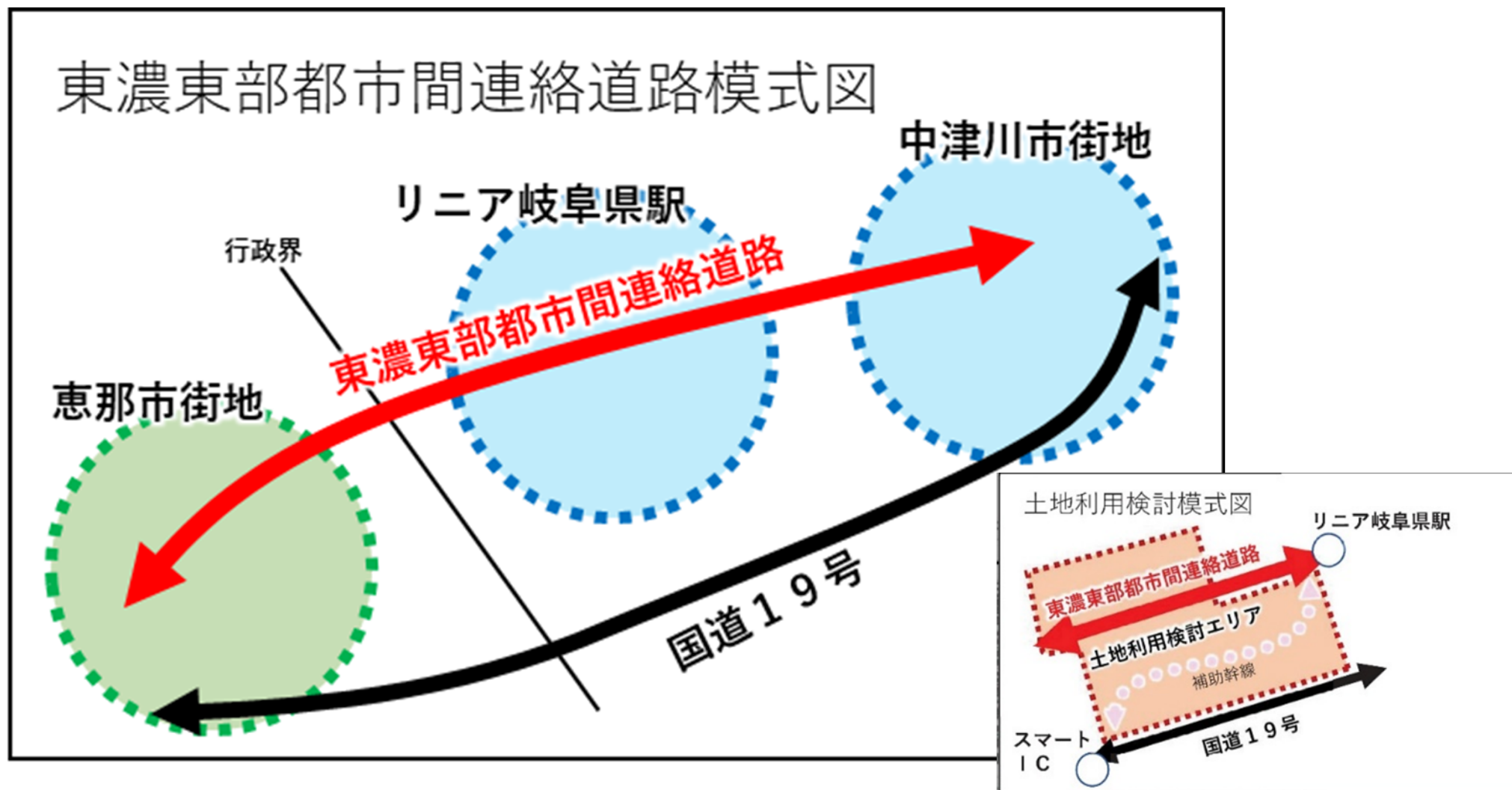




3. (1)現在の取り組み状況(路線計画)

東濃東部都市間連絡道路の考え方

技術連絡会の中で特に優先的に整備する路線として位置づけられた路線であり、区間はリニア駅を介して両市の駅周辺を結ぶ道路となる。

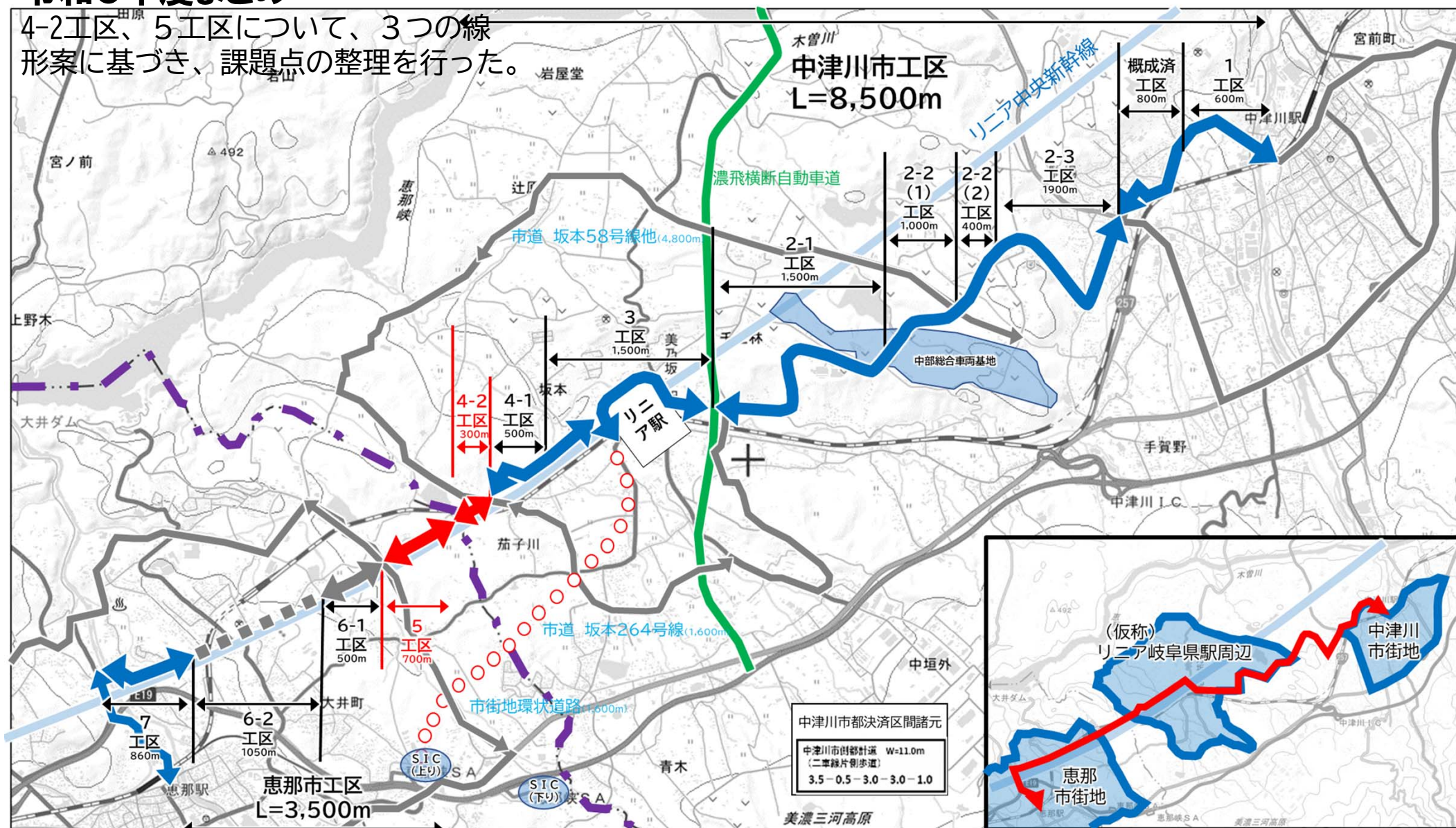




3. (2) 東濃東部都市間連絡道路 現在の取り組み状況

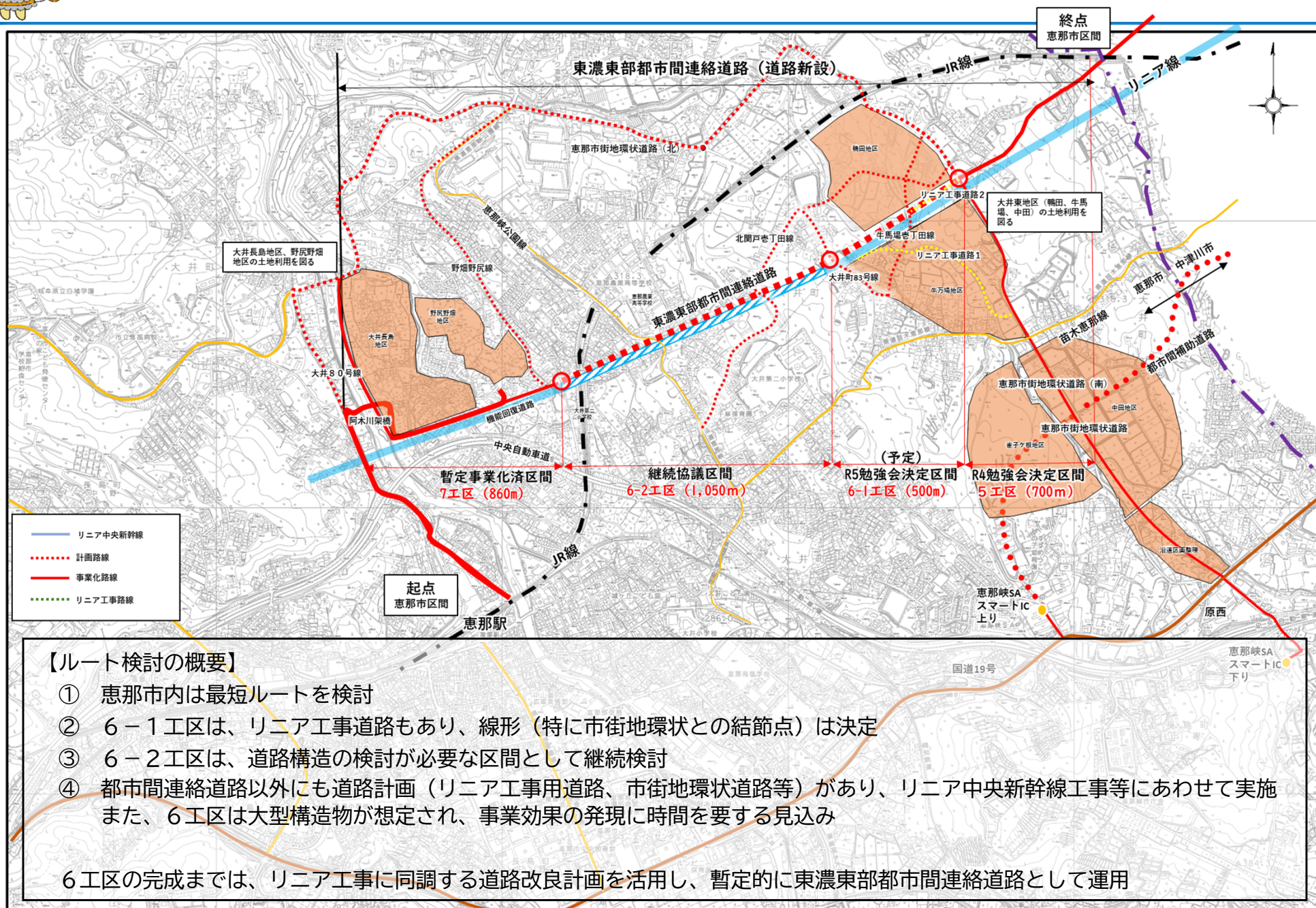
令和6年度まとめ

4-2工区、5工区について、3つの線形案に基づき、課題点の整理を行った。





3. (3)現在の取り組み状況(路線計画)





4. (1)大井長島地域及び野畑野尻地域の道路計画

リニアの影響をプラスにできるよう道路を整備
道路事業

- ① 機能回復道路事業（野畑野尻地域）
- ② 阿木川架橋事業（大井長島地域）
- ③ 大井町80号線拡幅事業（大井長島地域）

③大井町80号線拡幅事業

野畑野尻2号線

野畑野尻1号線

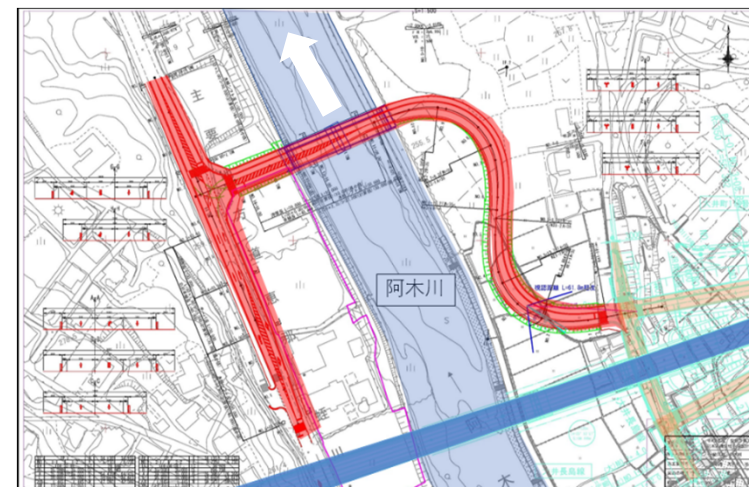
大井長島2号線

②阿木川架橋事業

①リニア軌道機能回復事業



4. (2)阿木川架橋事業



左岸橋台工事





4. (3)大井町80号線道路計画





4. (4)河鹿橋補強事業【完成】

													前期計画				後期計画								将来計画	
													前期計画期 間			恵那峡SASIC				リニア 東京ー名古屋 開業		リニア 東京ー大阪 開業				
施策	小分類	地区	事業名称		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14	R 15	R 16	R 17	R 18	R 19	以降			
市内ア	市街地環状道路	大井町	市道長島奥戸線 河鹿橋補強	計画																						
				実績																						
				AP																						



補強が完了し、耐荷重が20tとなった河鹿橋



4.(5)大井長島地区における土地区画整理事業

令和7年度 新規

土地区画整理事業

リニア開通に向け良好な住宅地を確保するため、恵那駅や恵那IC、恵那病院などへのアクセス性に優れた大井長島地区の土地区画整理事業の実施に向けた検討を進める。

出典：令和7年度主要事業の概要



大井長島地区





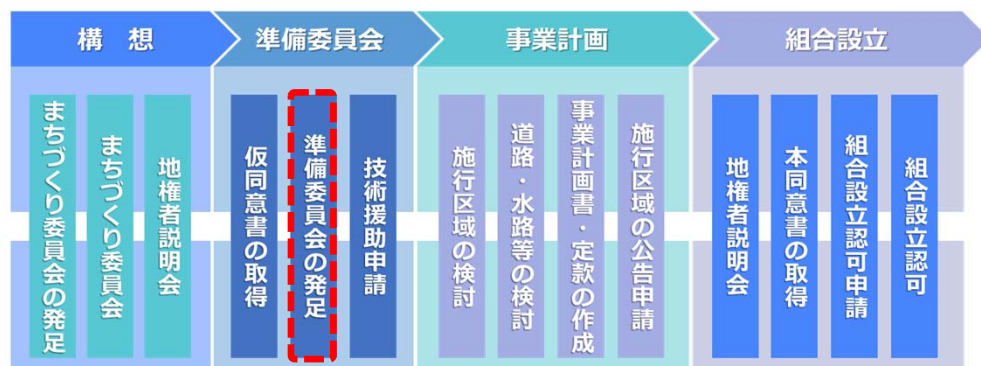
4.(6)大井長島地区による区画整理

経緯

今後の農地の管理に危機感を持った地権者が当初は圃場整備事業の実施を提案。市との協議の結果、都市的土地利用を含めた地区のまちづくりについて検討を行うため、まちづくり委員会を立ち上げ、地区の土地利用の在り方について勉強会などを通じて議論を深めてきた。令和6年9月、関係地権者を集めた会議の中で、**組合施工の土地区画整理事業を行うこととなり、設立準備委員会を立ち上げた。**

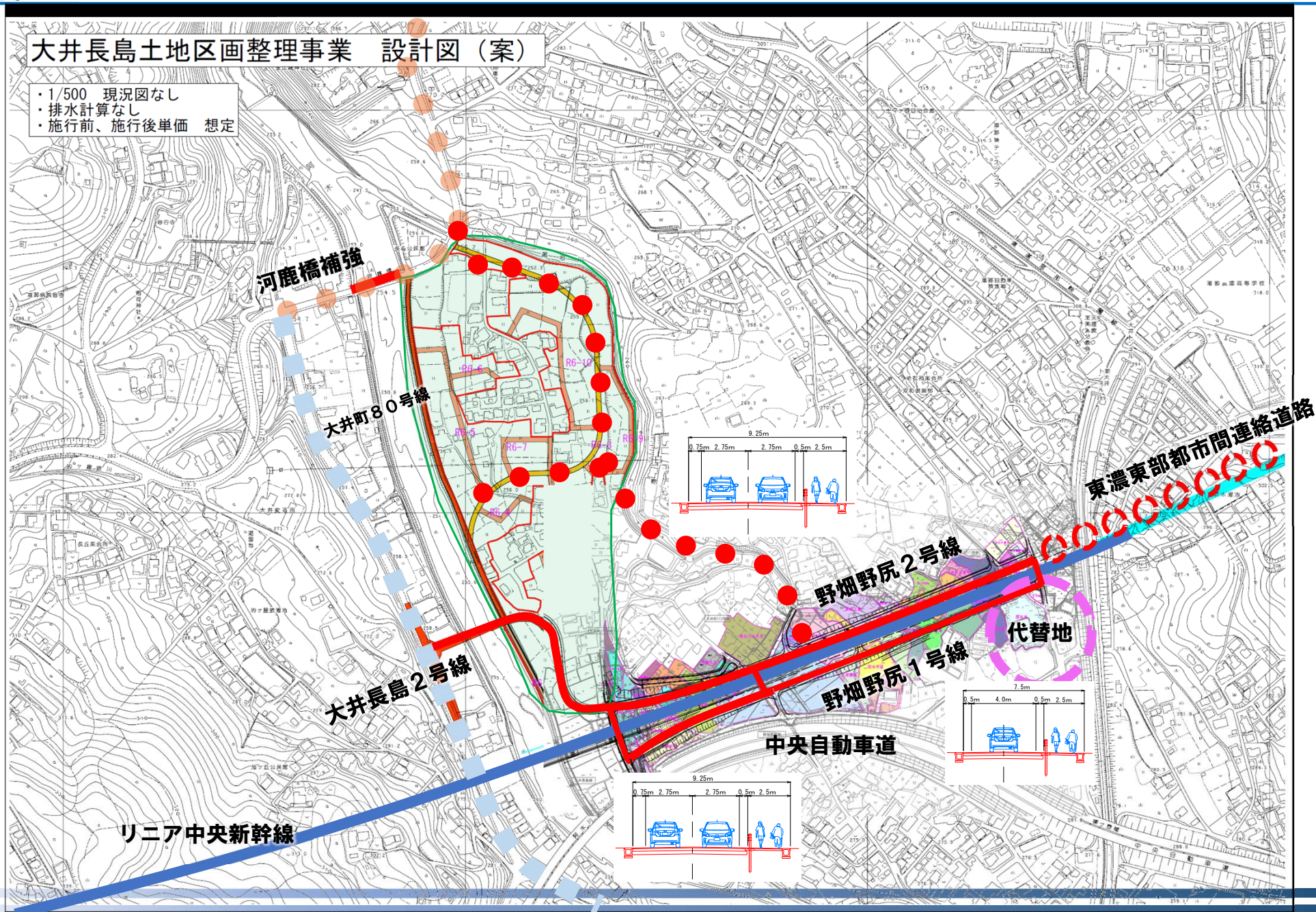
経過

平成31年 2月	土地利用に関する意見交換会開催
令和2年～令和5年	まちづくり、土地区画整理などに関する勉強会を開催
令和 6年 7月 1日	区画整理勉強会開催(役員対象)
令和 6年 9月 7日	区画整理勉強会開催(全地権者対象)
令和 6年 9月 日	仮同意書取得(95%)
令和 6年10月30日	区画整理組合設立準備委員会(第1回)
令和 6年12月17日	区画整理組合設立準備委員会(第2回)
令和 7年 2月14日	区画整理組合設立準備委員会(第3回)



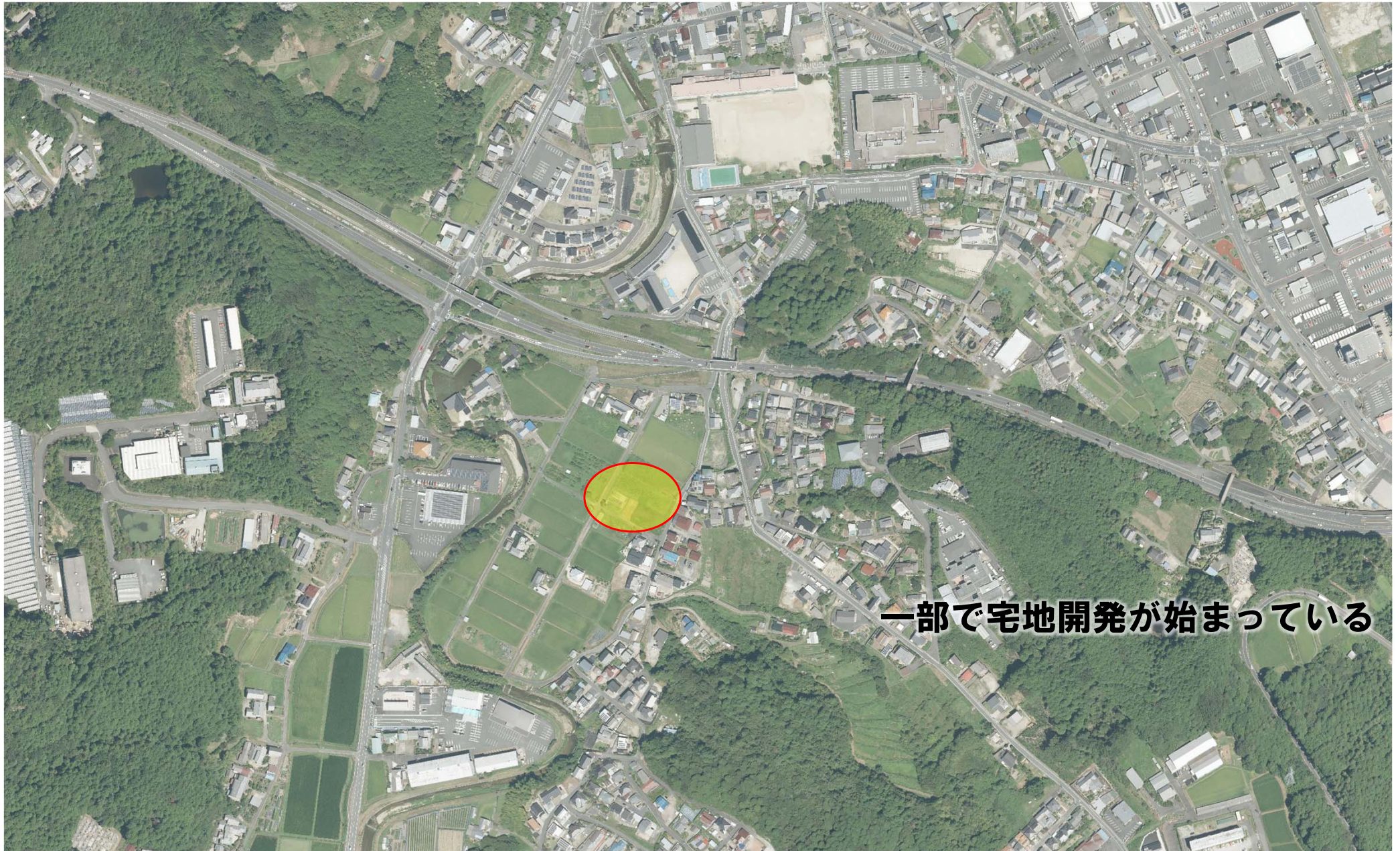


4. (7)大井長島地区による区画整理



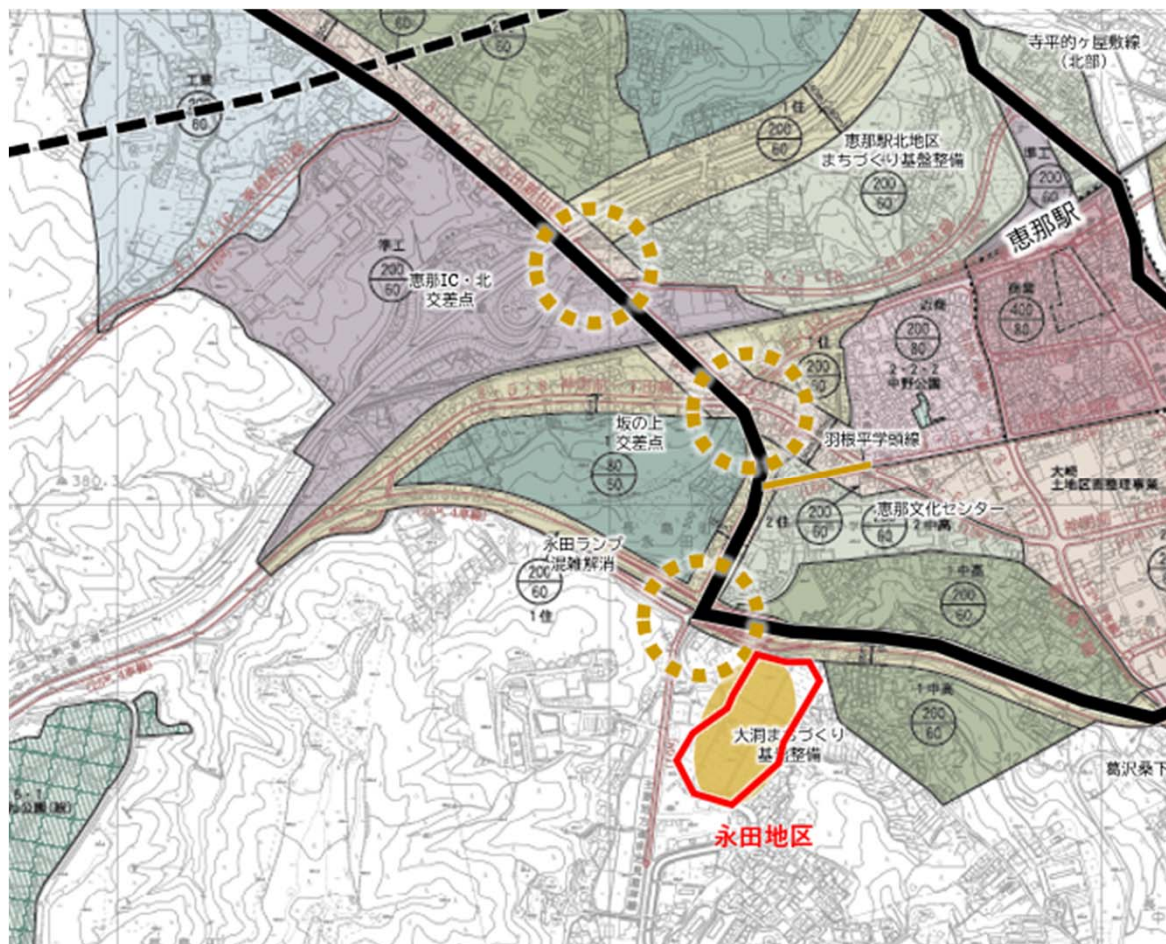


4.(8) (関連) 長島町永田 大洞圃場周辺の現状





4. (9)大洞圃場話し合い経緯



- H30 圃場組合へ趣旨説明
- R4 長島町まちづくり委員会要望
- R5. 1 圃場組合役員との話し合い
- R5. 3 圃場組合総会で、土地利用についての説明
地権者の印象を伺う
- R5. X
- R6. 3 圃場組合総会で区画整理等事業例の提案を予定していたが相手方都合により中止
- R6. 9 圃場組合役員へ再度区画整理について説明
- R6. 10 区画整理事業に関する地権者説明会開催
- R7. 3 圃場組合総会で説明会開催
- R7. 6 宅地地権者も含めた全体説明会の開催



5. (2) 瑞浪恵那道路交差市道

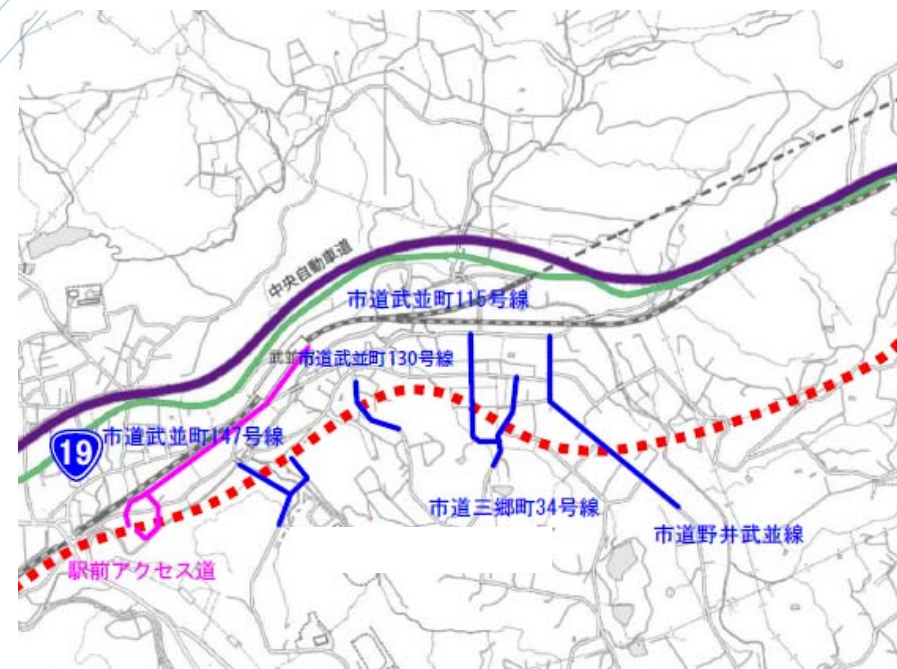
2. 現在の状況

野井武並線 (R5工事着手)

令和7年5月末現在



3. 周辺道路

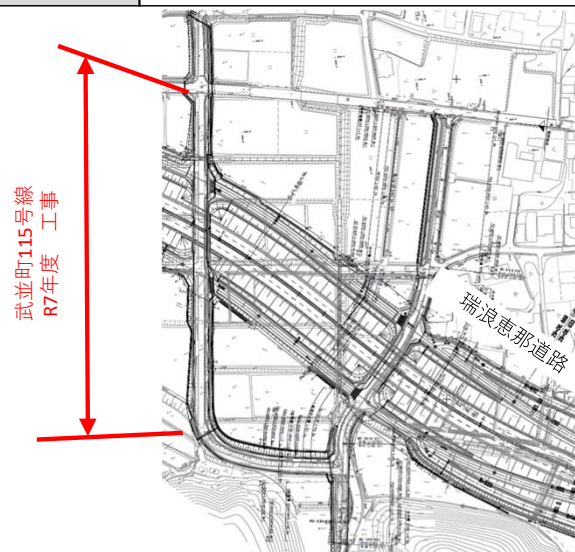


1. 事業の概要

「瑞浪恵那道路交差市道」は恵那市武並町を中心に、「武並町147号線、武並町130号線、武並町115号線、三郷町34号線、野井武並線」の市道5路線が瑞浪恵那道路と交差するため、改良工事を計画している。

そのうち、用地買収や協議が完了した野井武並線については令和5年度、三郷町34号線は令和6年度に着手した。今年度は、武並町115号線を工事着手予定である。

事業期間	令和2年度～令和12年度
財源	社会資本総合整備交付金
整備延長	武並町147号線 L=620m W=9.25m 武並町130号線 L=250m W=9.25m 武並町115号線 L=450m W=9.25m 三郷町34号線 L=300m W=9.25m 野井武並線 L=480m W=9.25m
整備水準	第3種 第4級 設計速度V=30km/h
総事業費	C=400百万円



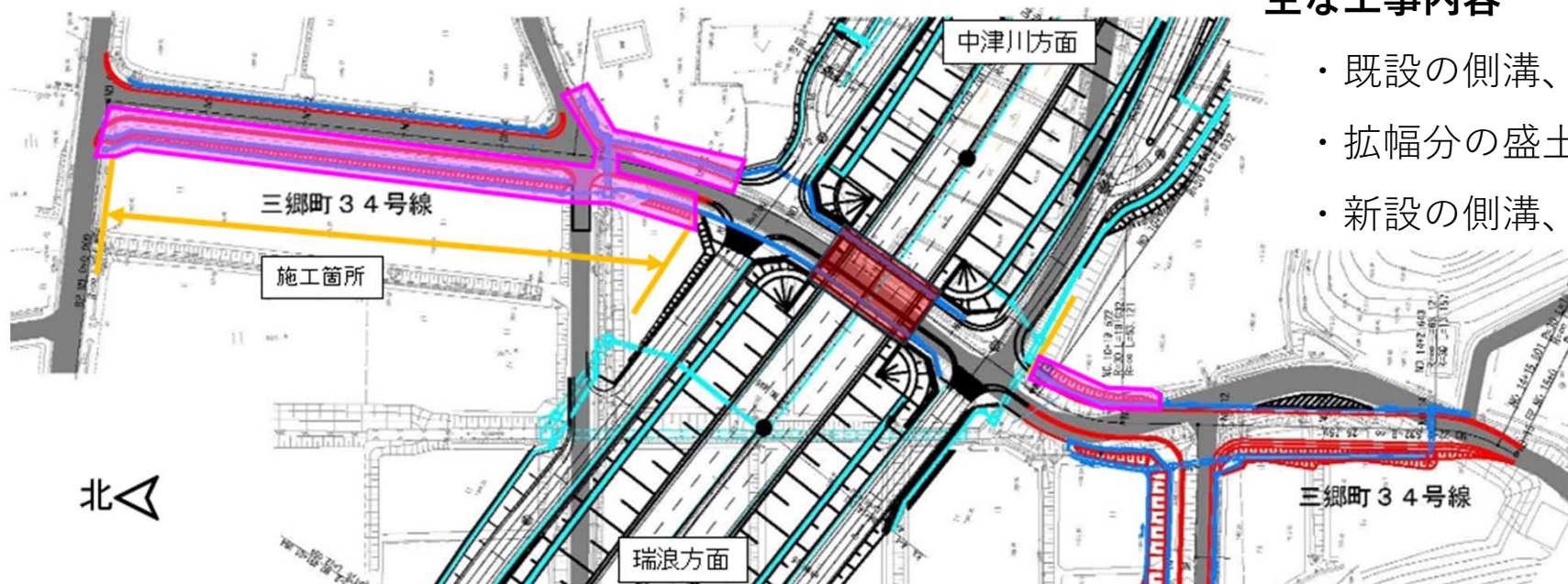


5. (3) 瑞浪恵那道路関連整備事業について

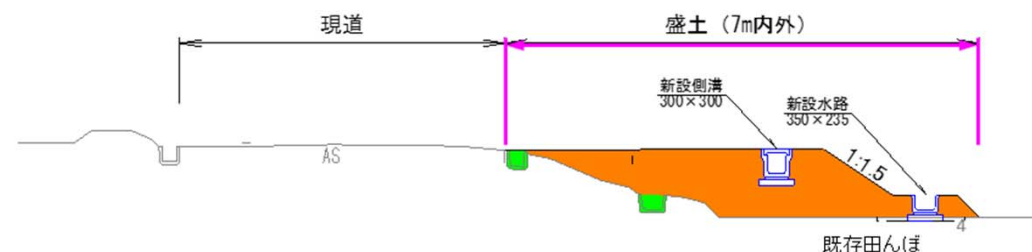
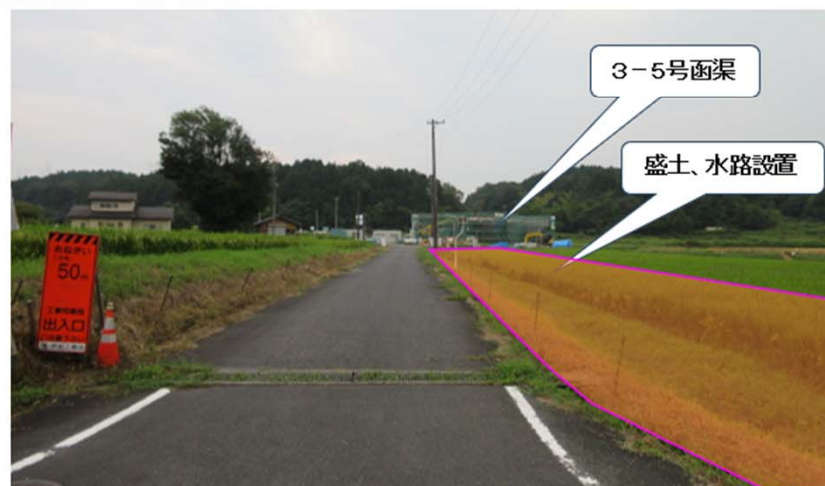
交差市道 三郷町34号線（恵那市武並町竹折 美濃・新田地区）

主な工事内容

- ・ 既設の側溝、水路を撤去
- ・ 拡幅分の盛土を実施
- ・ 新設の側溝、水路を設置



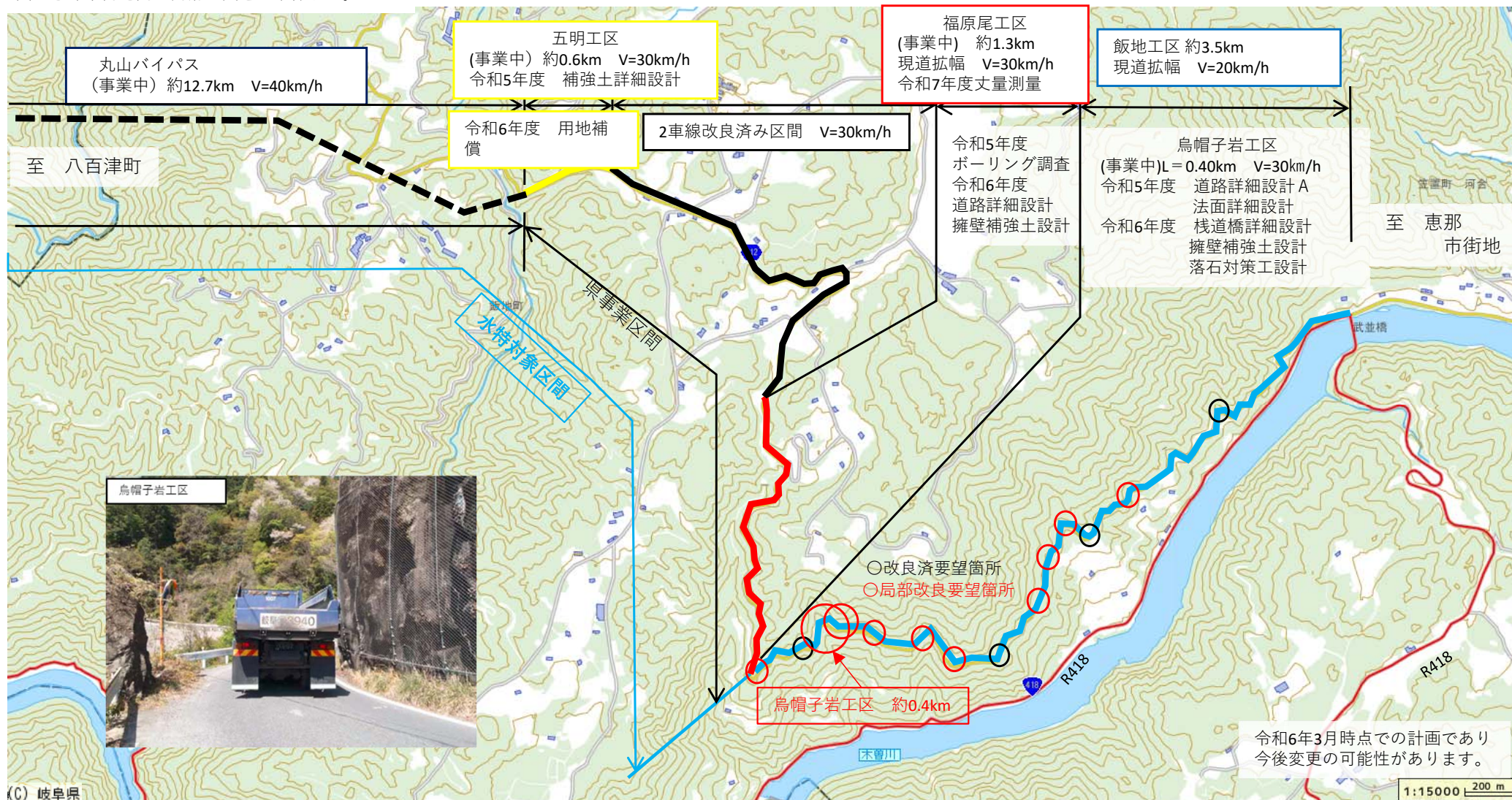
現況写真(北から南を望む)



6. 広域アクセスに関する事業

国交省が整備中である（国）418号丸山バイパスに合せて、その東側に位置する（一）恵那八百津線についても協調して整備を行い、八百津町方面と恵那市街地間の円滑な交通を確保する。

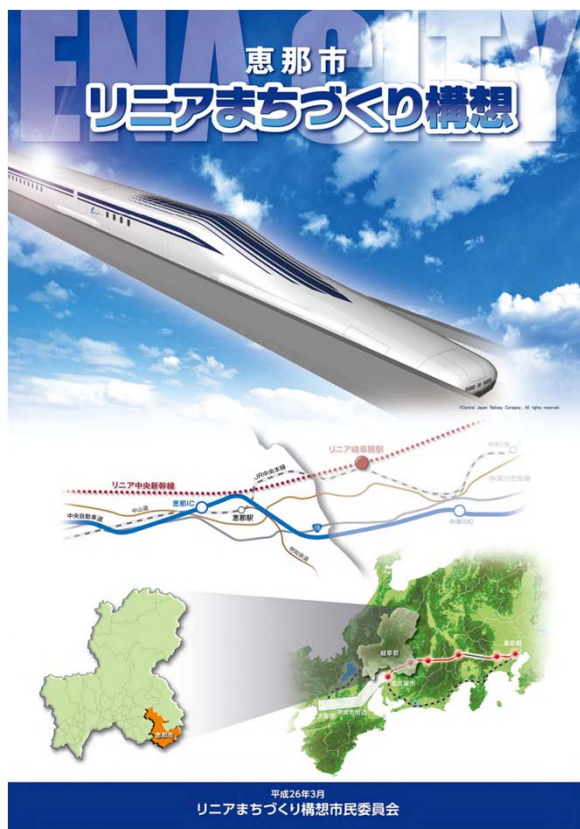
国道418号・（一）恵那八百津線 整備方針



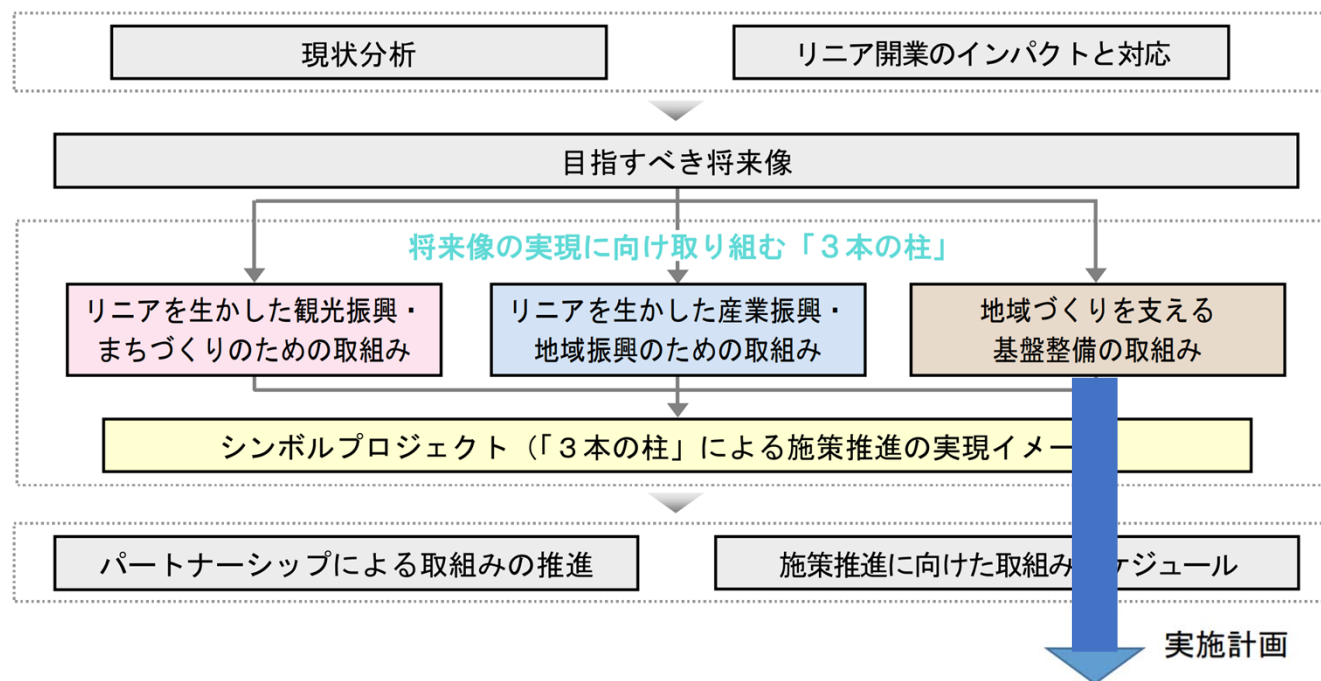


7. (1) 恵那市リニアまちづくり構想の構成と現状

- ・平成26年3月に策定 策定から10年事業が経過
- ・第3次恵那市総合計画の策定(R8)



本構想は、以下の内容で構成しています。



推進委員会で進行管理

**恵那市リニアまちづくり
基盤整備計画**

出典：恵那市リニアまちづくり構想



7. (2) 恵那市の観光まちづくり分野での見直し

方針4：新しい観光メニューをつくり上げていきます

■方針に関する主な資源等



■明智駅に移設された国鉄時代のSL



■笠置山のボルダリング

1 4) 観光鉄道施設の整備・活用

多くの観光地が明知鉄道沿線に点在していることから、観光地への移動手段である明知鉄道も観光の一環として提供する事が必要です。そのためには、明知鉄道自体の観光鉄道としての利用者増加も視野にいれながら、SL（蒸気機関車）の復活やDMV（デュアル・モード・ビークル）の運行に向け、周辺の自治体や関係機関と協議し検討を進めます。